

平成 29 年版 『VISTA English Communication I New Edition』

発行者		教科書	
番号	略称	記号	番号
15	三省堂	コ I	335

1-1. グローカル（glocal）な視野の題材を選びました。

- ・世界の様々な文化を知り、自国の文化を再発見して、地球環境やそこに住むものとの共生を考えるテキストです。
- ・各課の本文や練習問題は、身近な話題（日常生活、学校生活）、ことばと文化に関する話題（日本の伝統文化、比較文化、言語）、現代社会の諸問題（地球環境、平和）、自然科学や芸術の話題など、最新の話題から必須の題材をそろえました。

1-2. コミュニケーションという観点を重視し、言語の使用場面と働きを明確にかつ多岐にわたって設定しました。

- ・「本課」では対話、スピーチ、レポート、レクチャー、インタビュー、インターネット、物語など、題材の提示形式に変化をもたせてあり、題材に関する興味を高めて生徒の理解を効果的に深めることができます。
- ・授業を英語で行うことに対応して、各セクションに「Q&A!」を設け、生徒の発話の機会を増やしました。
- ・「USE ENGLISH!」と「ENJOY COMMUNICATION!」では、言語活動や日常会話の基本表現の中に言語の働きや場面が系統的に配置されています。
- ・「朗読教材」としての題材を盛り込みました。掲載されている朗読時のポイントを参照しながら、音声面での表現力を養うことができます。

2-1. 語彙、文法事項、教材を精選し、カリキュラムにゆとりをもたせると同時に、授業計画に柔軟に対応できる構成です。

2-2. 中学校学習事項における基礎・基本の徹底と、高校新出事項の段階的な習得が可能な構成です。

- ・教科書全体の導入として「Get Ready!」や「ののちゃんの英文法」を設け、本課に入る前にアルファベットの書き方、辞書の引き方、教室会話、品詞などの復習ができるように配慮しました。
- ・全体を PART 1 と PART 2 の 2 部構成としました。PART 1 では中学既出の中でも特に基礎的な項目に徹し、PART 2 では中学校の復習から徐々に高校新出事項に移行できるように配慮しました。

- ・各課の本文には必ず前課の文法項目が入れてあり、繰り返し学習ができるように工夫しました。
- ・「Look and Learn」として文型・文法に関する体系的なまとめを定期的に配置し、学習事項の整理と学習効果の強化を図りました。

2-3. 言語活動の4領域を、総合的・有機的に関連づけた活動が行えるように工夫しました。

- ・各課の「PRACTICE!」を中心として、「聞く」「話す」「読む」「書く」という言語活動の4領域が無理なく行えるように、構成上の工夫をしました。
- ・課間に、日常会話表現を中心にした「ENJOY COMMUNICATION!」を設け、コミュニケーション能力の伸張を図りました。

3-1. 弾力的・発展的な学習が行えるように、使用上の便宜を図りました。

- ・「USE ENGLISH!」や「ENJOY COMMUNICATION!」には、自己表現につながる表現が用意され、発展的な活動を行うことができます。
- ・音声スクリプトが巻末に掲載されています。生徒の「聞く」力の状況に応じて柔軟に活用することができます。

3-2. 学習効果を配慮した写真や図を豊富に用い、また紙面効果を高める工夫を施しました。

- ・写真や図・イラストを厳選し、題材に関する興味を喚起すると同時に、内容理解が深められるように工夫しました。
- ・レイアウトは、自然な目の流れや見やすさを勘案し、紙面の色使いや、紙面を構成している各要素の配置にも工夫して、学習効果が高められるように配慮しました。

4. 生徒の発展的な学習を促す各種項目が掲載されています。

- ・セクションごとの「SAY IT!」や巻末付録の「英語の音」を設け、音声面での自学・自習ができるような配慮をしました。
- ・各課の文法項目を学ぶ「STUDY IT!」では、学習事項がすぐに確認できるように「DRILL」を設け、学習の強化を図りました。
- ・「Look and Learn」の確認問題「DRILL」には巻末に解答を設け、自学・自習ができるような配慮をしました。